

(様式1) 平成 22 年度

1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2870900145		
法人名	株式会社 アクティブライフ		
事業所名	アクティブライフ夙川		
所在地	兵庫県西宮市樋之池町16-4		
自己評価作成日	平成22年5月30日	評価結果市町村受理日	平成22年7月29日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigo-kouhyou-hyogo.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 H.R.コーポレーション		
所在地	兵庫県西宮市甲陽園本庄町6-8-102		
訪問調査日	平成22年6月16日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

認知症になっても地域で安心して生活することが出来るように 生活サポートセンターとして 安心と尊厳ある生活を支えて行くとの思いをスタッフ1人1人が意識して寄り添いながら支援している。利用者の高齢化や重度化への対応として医師、訪問看護師と連携し安心と納得が得られるような 支援を目指している。食事を楽しんでいただく支援として 個別メニュー、嚥下困難な方へのソフト食などそのつど対応が出来るようにきめ細かなかわりを心がけている。

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

閑静な住宅街にあり、周辺環境に調和した落ち着いた佇まいのホームである。「ご利用者の安心と尊厳のある生活を支えていく」との思いを職員は常に意識し、ケアを実践するうえで の 拠りどころとして日々の支援がなされている。家族との関係も、来訪時等での交流の機会を大切にすると共に、それぞれの利用者の状況を個別に介護状況レターやホーム便り等で毎月伝え、日頃より密な連携が図れるよう働きかけている。また、毎年実施している法人全体での家族アンケート調査の結果を集計・分析し、ケアに反映させサービスの質の向上につなげている。重度化や終末期に向けてのホームの方向性や対応については、利用者・家族の安心と納得が得られるよう話し合いを重ねていくと共に、職員間でも共通の理解を持って同じ姿勢で対応していくために、更なる職員教育・育成の充実を目指している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および第三者評価結果

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営方針にも「地域と共に」を掲げ、住み慣れた街・地域で暮らしていく事を大切に、職員一同実践している。	開設当初より地域との関わりを継続しながら、利用者主体の暮らしの実現を目指している。法人の4項目の理念をもとに「家庭的な雰囲気の中で、安心と尊厳ある生活を」というグループホーム独自の理念を挙げている。職員はケアを提供する中で常に理念を意識し、研修や日々のミーティング等で話し合い共有化を図っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣のインターナショナルスクールの園児の来訪や、近隣の幼児が庭で水遊びができるように場所の提供を行ったりしている。自治会に入会しているため 回覧板がまわり 地域の情報誌「みやっこ」が定期的に配布される。	地域の自治会に加わり、回覧版を届けたり情報誌の配布などを通じて、地域住民との繋がりを継続している。地域の幼稚園児の来訪や、たんじり・夏祭りへの参加等、多世代間における交流の機会がある。地域のボランティアセンターなどで開かれる認知症サーポーター講習会などに講師として参画し、認知症についての正しい知識や接し方を、地域住民に理解してもらえるよう働きかけている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	キャラバンメイト養成講座などに参加したスタッフや、地域のボランティアセンターなどで認知症の勉強会を開催、認知症を理解していただけるように取り組んでいる		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	概ね2ヶ月毎に運営推進委員会を行い、GHの現状を報告し、その月の行事(季節の行事)に参加してご利用者と交流している。また他施設の工夫や現状も伺い意見交換の場となっている。	会議は、利用者家族代表・市の職員・民生委員・知見者の参加のもと、概ね2カ月に1回開催されている。ホームの近況・行事への取り組み・利用者の状態など報告し、看取りへの取り組みや医療連携体制など、その時々でのホームでの検討項目を伝え、意見を聴いている。今年度は、利用者や家族に季節を感じてもらえるような取り組みについてテーマを絞り、参加者からの意見や提案を聴き、日常のケアに反映させている。	運営推進会議の中で、自己評価や第三者評価結果を報告し、改善への取り組み等について意見や提案を出し合い検討し、サービスの質向上に活かしていく事を期待する。

自己	者 第 三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市・社会福祉協議会が開催する研修に参加して交流の機会としている。	年に4回開催されている西宮市グループホーム連絡会や、社会福祉協議会の主催する認知症家族の会「さくら会」の中での交流の機会に、情報交換がなされている。日々の相談や意見等は、行政の担当者と密に連絡を取り合い、問題解決にむけ協力し合っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	基本的には拘束はしないとの方針でありミーティングなどを利用して管理者及び職員も学習して徹底している。やむなく門扉を施錠する場合でも、見守り・声掛け等のサポートを優先にできるだけ施錠の時間を短くできるよう配慮している。	身体拘束排除についてホームの指針を整備し、身体拘束の無いケアに努めている。マニュアルをスタッフルームに設置し、常に意識しながら働けるよう取り組んでいる。定期的に行っているミーティングの中で、施錠を含む身体拘束について学んでいる。緊急かつやむを得ない事情で行われる場合についての家族の同意書など様式を整えている。ホームの玄関や門扉は、利用者の状況に配慮しながらも開錠を基本とし、エレベーターはテンキー操作による利用ではあるが、利用者に閉塞感の無いよう努めている。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の方針を徹底するために、ミーティングや社内研修時に学習する機会をもっている	身体拘束廃止と関連付けながら高齢者虐待の防止に向け意識を高め、知識の向上のために研修を実施している。身体的虐待や心理的虐待等の区分や内容を理解し、職員の言動や対応について具体的に話し合っている。利用者一人ひとりを尊重し、本人の思いにそったケアがなされているか接遇研修の中でも話し合われている。	
8	(7)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護については、ミーティングや社内研修時に学習する機会をもっている。必要性も随時検討するようにしている。	制度を活用している利用者や家族の方への相談は、主に管理者が対応していくよう体制を整えているが、個々の職員も制度を理解し、利用者や家族の思いを聴き、管理者と共に適切に支援して行けるよう努めている。	

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
9	(8)	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の前には重要事項説明書の読み合わせ、サービス内容の説明を行い、その後契約をさせていただく。その都度確認を行い、理解・納得していただくよう努めている。	入居について関心がある家族へは、重要事項説明書や第三者評価結果を参考にもらい疑問点等を説明している。契約に至った場合は契約書等も含め文書にて詳細に説明し、不安の解消に努めている。契約書等の変更については、家族会などで納得のいくよう説明し、家族の同意を得るようにしている。	
10	(9)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご利用者のご要望等は朝の会や日頃のコミュニケーションから伺い、ご家族からもご来訪時にお話を伺ったり、家族会で意見交換できるようにお話していただく機会・雰囲気ができるよう努めている。毎年アンケート調査でご意見も伺っている。苦情相談窓口についても重要事項説明書で明記している。いただいた意見は申し送り・ミーティング等で検討し反映させている。	利用者の思いや要望等は、日常の関わりの中から把握すると共に、毎朝の朝の会でも思いを伝えやすい雰囲気に配慮している。利用者の日々の健康状態や生活状況・行事参加の様子等は、個別に介護状況レターやホーム便りとして毎月家族に伝え、日頃より密な連携が図れるよう取り組んでいる。家族からの意見等は面会時に聴くと共に、法人でアンケートを実施し、結果についてミーティング等で話し合い、ケアに反映させるよう取り組んでいる。	
11	(10)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月社長訪問面接があり、社長に直接要望を伝える機会もある。管理者は半年毎の面接時や毎月のミーティング時または随時意見を聞くように努めている。また、毎年『改善提案・報告』を書式にて提出する機会もある	社長や管理者との面談を毎年定期的を実施し、一人ひとりの職員の要望や意見等を確認し、運営面に活かせるよう配慮している。日常の中で、職員が要望や意見を出しやすい職場環境の整備に努め、提案等を書式にて提出するような取り組みの工夫もある。法人内やユニット間の異動については利用者との関わりに配慮し、極力ダメージのないよう配慮している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者はスタッフ面談・評価を定期的に行い、向上心が持てるように働きかけている。研修については社内外問わず情報の提供に努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	本社研修センターでの研修が定期的に行われており、各部署でも振り返り・バックアップの研修をミーティング等で行っている。外部の研修にも参加できるように情報の発信・計画を行っている。		

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14			○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡会や市主催の研修などに参加して交流の機会をもちサービスの質の向上につとめている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15			○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご家庭に訪問する日程を調整してご本人からお話を伺っている。また、事前にできるだけホーム内を見学していただき、デイサービスの体験・アクティビティなどに参加していただく事もある。		
16			○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご自宅の訪問やお電話でお話を伺ったり、見学などでご来訪していただきお話を伺う機会をもうけ信頼関係が築けるように努めている。		
17			○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	どのようなお手伝いができるのか・必要であるのかをしっかりと検討し、フォーマル・インフォーマルなサービスの情報を提供するようになっている。		
18			○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	お一人お一人の生活をお手伝いするという気持ちで日々のコミュニケーションを大切にしている。お得意な事を教えていただいたり、日常のお手伝いしていただきながら日々の暮らしを大切にしている		
19			○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族と共にサポートさせていただけるよう、随時相談・報告につとめ、ご本人の情報なども教えていただくようになっている。また、一緒に外出等ができる機会も大切にしている。		

自己	者 第 三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	これまで大切にされてきた関係が途切れないように、何時でも面会に来ていただけるようにしている、行事などに一緒に参加していただけるようにお誘いする場合もある。	利用者の馴染みの友人や知人の訪問の機会があり、状況に応じては家族に相談しながらその都度支援している。利用者との会話等の中で、これまでの大切にしてきた出来事・人間関係を把握し、今実現できる事を、利用者の思いに沿ってできる限り支援している。馴染みの場所等への外出支援も、家族の協力を得ながら取り組んでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係ができるようにスタッフが架け橋となりきっかけ作りをお手伝いしている。食事・朝の会やアクティビティでは座席にも留意し、顔馴染みの関係が続くよう努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご退去された後も季刊アクティブライフを送付するなどしてお付き合いをしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	お一人おひとりの思いを改めて伺う場合もあるが、日常の会話からもくみ取れるように日々のコミュニケーションを大切にしている。困難な場合は、その方の行動・表情を観察して対応している。またご家族にも相談させていただく事もある。	入居時に利用者・家族からの思いや要望等を聴き記録に残している。入居後も利用者の言葉・表情・行動等から希望や意向の変化を汲み取り、パソコン等を活用し記録し、職員間で共有できるよう取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご入居時にご本人やご家族からお話を伺っており、馴染みの物はできる限り使用を続けていただけるようにしている。アルバムや持ち物のお話を聞かせていただき、これまでの生活の把握に努めるようにしている。その情報は記録に残しスタッフ間で共有するようにしている。		

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25			○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	お一人おひとりの生活のご様子・身体の状況は毎日必ずパソコンに入力し、申し送りしている。		
26	(13)		○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人・ご家族の意向をスタッフ・かかりつけ医等と随時相談しながら介護計画を作成し、再度ご本人・ご家族に確認している。期限内に変更がある場合もその都度ご本人・ご家族と相談・確認をしながら対応している。	アセスメントにより利用者・家族の意向やニーズを明確にし、医師の意見も参考に、本人の思いにそった介護計画を作成している。パソコンに入力された利用者の個別記録等を用い、毎月モニタリングを実施し、定期的には6か月に1回、介護計画の見直しを行っている。また、利用者の急変時や家族の要望等があればその都度変更し、本人・家族へ説明し同意を得ている。モニタリングの記録については、更に充実させていく為に書式の変更等検討を重ねている。	
27			○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々のご様子は勤務スタッフが必ずパソコンに入力し、どのスタッフも勤務前には必ず記録の確認をしてから対応にあたるようにしている。また口頭での申し送りも行っている。		
28			○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時の状況に応じて、ホームヘルプ・デイサービスの運転手・訪問看護との連携をとり、できる事を柔軟に考えている。		
29			○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	年末の恒例行事であるお餅付きには、地域のボランティア・民生委員の方の協力を得ている。		
30	(14)		○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご入居者がいままでかかりつけ医としていた馴染みの先生に診ていただけるように医療関係者とその都度連絡をとっている。また、囑託医とも連携をとり、ご入居者の健康管理の為に毎月1回定期的に巡回をいただいている。	24時間相談可能な提携医が、月1回の往診も定期的に行っている。利用者・家族が希望するかかりつけ医については、職員が付き添い、受診支援を行っている。受診結果は電話や状況レターにて、家族に確実に状況を伝えるよう取り組んでいる。	

自己	者 第 三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師・嘱託医の看護師にご入居者の様子をお伝えし、相談させていただく事がある。通院の際には 状況を伝えている		
32	(15)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	お見舞いに伺い経過を確認しながら、できるだけ早く退院できるように先生と相談検討している。また、退院後も病院と連携がとれるように情報交換に努めている。	利用者の入院時は、面会等で利用者・家族の思いを聴きストレス軽減に努め、早期退院に向けた支援を行っている。利用者の状態等については担当医に相談すると共に、利用者の経過を記録ノートに記載し、情報を共有できるよう取り組んでいる。	
33	(16)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度の方への対応は、変化がある毎にかかりつけ医・ご家族と相談しGHでできる事の確認している。またターミナルケアに向けても早い時期からご家族との話し合いの場を持ち、かかりつけ医との確認も行うようにしている。	重度化等へのホームの対応については、入居時に、利用者・家族の納得が得られるよう説明している。利用者の体調変化に応じて、家族や医師と話し合い、ホームとしてできる限りの支援に努めている。緊急時等への対応については、提携医との連携体制が整っている。医療連携体制の整備に向け家族等と話し合い、納得が得られるような働きかけを継続している。ターミナルケアへの意識の統一やスキルアップの為に、職員間での研修を予定している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ご利用者の急変に備えて、応急処置のマニュアル確認・手順確認を定期的にするようにしている		
35	(17)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	救急訓練は年に2回行っている。地域の消防署と連携をとっている スタッフが救命救急の講習会に参加して体制の強化に努めている	消防署との連携のもと防火訓練を年に2回実施し、夜間発生も想定した訓練となっている。自動通報装置や防火扉等設備面を充実させ、安全面に配慮している。救命救急についての講習に参加している。地域の防災担当者と交流の機会があり連携が取れている。三日分の食料等を備蓄し、非常時に備えている。	

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(18)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	方針にある「尊厳を保つ」を念頭におき、人生の先輩に対する言葉掛けができるように対応している	日常のケアにおいて、利用者を尊重し利用者主体の支援を徹底している。接遇研修や認知症研修の中でも学ぶ機会をもち、マニュアルを整備し、職員は常に意識した対応を心がけている。個人情報の保護については、家族に利用目的を説明し同意を得ており、個々の利用者の情報管理は、セキュリティの管理を徹底し、適切に取り扱っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご入居者のお気持ちを引き出せるような言葉掛けを意識しながら対応し、言葉に出来ない方の表現方法も受け止められるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日のスケジュールは特に決まっていない。できるだけご入居者の希望に添えるように対応している。また、すぐに対応できない場合は納得していただける理由をお伝えするようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご自分の好きな物を着ていただくようにしている。また、ご自分で選べない方にも以前の趣味・趣向を考慮して提案させていただく。季節ごとの衣類の取替えなどは ご家族の方がしてくださり さりげないおしゃれをしていただいている。		
40	(19)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は厨房で用意している。配膳・洗物などをされる方が少なくなってきましたが、季節に合った料理や材料の会話からお食事を楽しんでいただくようにしている。お誕生日にはご本人のお好きなメニューをご用意している	食事は施設内の厨房に委託しているが、ご飯と味噌汁はホーム内で準備している。個々の利用者の力量等見極め、食器運び、おやつ作り等手伝ってもらっている。定期的に関われている食事ミーティングで利用者の意見や要望を検討し、献立に反映させている。季節の食材の活用や行事食の工夫等、食への楽しみにも配慮している。	

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41			○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	お一人おひとりの状態に応じて、医師からの指示も含め対応している。また、その日の体調の変化に応じてメニューも変更している。お茶ゼリーや好みの飲み物をご用意して水分を摂っていただけるように支援している。		
42			○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアをお勧めしている。その方の状態にあった歯ブラシやケア用品をご用意している		
43	(20)		○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	それぞれの排泄パターンを把握してトイレにお誘いし、できるだけ自然な排泄ができるようにしている。また、昼間は普通の下着→夜間ははくパンツに履き替えるなど、状況により対応している。	利用者の心身の状況に応じて排泄チェック表に記録し、個々の排泄パターンを把握している。それぞれの利用者の排泄パターンにそって前誘導を行い、トイレでの排泄や自立に向けた支援を行っている。	
44			○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝の会などで体操をしたり、それぞれに応じてヨーグルト・乳酸菌飲料などをご用意している。緩下剤を服用している方も、お通じの間隔・状態を毎日確認して服用量を調節している。		
45	(21)		○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的には夕食後～就寝前に入浴していただいています。ご本人のご希望や体調によっては日中に入浴していただく事もある。	利用者の身体状況に応じて適切な箇所に手すりを設置したり、スライドチェアの活用等で安全面にも配慮した入浴支援を行っている。同姓介助の希望に対応し、プライバシーに配慮した対応となっている。入浴時間の基本は夕食後から就寝前となっているが、本人の希望があれば調整していくよう努めている。	
46			○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝の時間は決まっておらず、それぞれの習慣・リズムでお好きな時間に休んでいただいている。お昼寝をされる方もお好きな時間に自由に休んでいただいている。冬に使用しているゆたぼんが好評です。		

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47			○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お一人ずつ「お薬手帳」を作成して、お薬の目的・副作用がわかるようにしている。服薬変更・新しいお薬の服用の際はご入居者の様子の変化をしっかりとみるように努めている。		
48			○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お一人で過ごしていただく時間と朝の会など集団で過ごしていただく時間をもてるように配慮している。手作業などについても、ダイニングやリビングで行うばかりでなく居室で個別に行えるようにしている。		
49	(22)		○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご希望に合わせた時間や場所にお出かける事が難しくなっていますが、日常の近隣へのお散歩へは出来るだけ出かけるようにしている。少し遠出の場合はご家族にもご協力いただいで実現できるよう計画をたてている。	近隣のスーパーでの買い物や散歩など、日常の気軽な外出支援ができるよう努めている。利用者の高齢化等による身体状況の低下もあるが、個々に応じて車椅子など福祉用具も活用し、安全面に配慮した外出に取り組んでいる。家族の協力を得ながら個別での遠出の外出や、庭でお茶を楽しむ等工夫している。	
50			○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を所持できる方は所持していただき、近隣のスーパーなどでお買い物をしていただいている。所持しておられない方も、外出の際にご希望の物が購入できるように支援している。。		
51			○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご自分で電話をされる方はわずかですがご家族などから かかってきた電話は本人に取り次ぎ話しが出来るように お手伝いしている。		

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感のある飾り・置物を用意したり、ご入居者と一緒に作成したりしている。生活空間なので、音楽も大きな音になり過ぎないように、飾りも華美にならないよう注意している。窓際の明るさについては、もう少し調節がきくように検討中である。	ホーム内は清掃が行き届き清潔感が保たれている。利用者の懐かしい作品・写真・絵画などを、雑然とならないよう工夫して掲示し、親しみやすい雰囲気の中で落ち着いて過ごせるよう配慮されている。また、共有スペースには、人の気配を感じつつも、独りになれるような空間が確保されている。ホーム内では、適切な換気や空気清浄機等の活用にて、気になる臭いや空気のとどみ等は感じられなかった。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールの椅子も整列型ではなく、色々な場所に椅子を置くようにしている。気の合うご入居者同士で居室で過ごしておられる事もある。		
54	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や椅子・布団などを持ってきておられる方もおり、また思い出の絵画や写真を飾っておられる方もいる。	本人や家族の思いを大切に支援し、ぬいぐるみ・テレビ・写真など思い思いの物品を持ち込み、個性を大切に、その人らしい空間となっている。それぞれの利用者の状態に応じて空気清浄機等も活用し、心地よく過ごせるよう配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	必要な場所に手すりを設置し安全に歩いていただくようにしている。また車椅子自走の方にも配慮した家具の設置を心がけている。トイレのドアを赤くする事でよく覚えていただけているようです。		